

懐メロの誕生にかかわる裏話シリーズ

「歌にまつわるエピソード」から

長崎の鐘 誕生秘話

今回は「懐メロ誕生」について、4丁目の伊藤武さんが50年以上前から歌の世界に情熱を持ち続けたその秘話を、収集冊子の中から抜粋し、お届け致します。

伊藤武さんは、昭和9年生まれで、子どもの頃からラジオとレコードの中で過ごしていました。

これが影響して音楽に興味を持つようになり、その後も新聞、雑誌、映画などから多くの情報を得て記録したりデーター化することが得意となっていたそうです。

レコードを頻繁に聴くなかで歌の背景やもろもろの秘話など収集しつつ、自身も直接歌手に会いに行つてサインをもらったり、今で言うところの追っかけ大好きな青年だったようです。

(収集誌より)

昭和18年茨城県の海軍霞ヶ浦航空隊から古閑裕而に飛行

予科練習生のための歌の製作依頼があった。体験入隊も経験し、短調の歌「若鷺の歌」が予科練習生に受け入れられ採用された。

映画「決戦の天空へ」の主

題歌にもなり、大きな反響のもと大衆から愛唱され大流行した。

翌19年、歌手の霧島昇は群馬県太田市の飛行機会社に慰問に行き「若鷺の歌」を唄い控室に戻つたら赤紙(軍からの召集令状)が届いていた。自分の歌で出征したのは後

にも先にも霧島を除いてほかには居ない。昭和20年8月、原爆が投下され、焦土化した広島市に続いて長崎市にも。平和な街が一転、地獄の様に急変して多数の犠牲者がでた。

その中に夫人を亡くし、自らも被爆し白血病に犯され闘病生活を余儀なくされた長崎医大の永井隆博士が病床で綴つた体験記「長崎の鐘」の随想があり、たちまちベストセラーになった。

その博士を賞賛しコロムビアがレコード化したところ、古閑メロディー特有の格調高い歌謡曲だったので翌年松竹映画「長崎の鐘」の主題歌となった。(作詩：サトウハチロー、歌：藤山一郎)

歌手の藤山一郎は、昭和24年春先にこの歌のレコーディングをしたが、当日高熱を出したため、息も絶え絶えに唄うことになった。

後日、体調の良い時にと申し入れたが録音を聴いた古閑

裕而が「曲の悲壮感が出ていて素晴らしい」と好評でそのままレコード化された。

戦時中、数多くの軍歌を書いた古閑裕而は東京の自宅で終戦を迎えたが軍歌で協力した犯罪者にされるのを予想して死を覚悟した時もあった。

長崎をテーマにした曲は多いがこの曲は異色の名曲で戦争の無い平和な社会と全世界

「長崎の鐘」歌詩

こよなく晴れた青空を
悲しと思うせつなさよ
うねりの波の人の世に
はかなく生きる野の花よ
なぐさめはげまし長崎の
あゝ長崎の鐘が鳴る

2
召されて妻は天国へ
別れてひとり旅立ちぬ
かたみに残る ロザリオの
鎖に白きわが涙
なぐさめはげまし長崎の
あゝ長崎の鐘が鳴る

部内資料

発行責任者	太田 勲 (62-5727)
議員連絡先	薄井 孝彦 (62-5093)
	服部 久子 (62-4357)
編集責任者	山本 久子 (61-1066)

228号
2020年10月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ



挨拶する下条みつさん

歴代内閣が憲法上、許されない

長野2区から政権交代を！

「市民と野党の統一候補をつくる会」開催

10月18日松本勤労者福祉センターで、来る衆議院選挙で長野2区から、市民と野党の統一候補を擁立し政権交代の大きな流れを作るため、討論集会を開きました。

主催は「中信市民連合」で、「本気でとめる戦争！松本アクシヨン」「いのちと未来を考える安曇野の会」「野党共闘をさらに進める大北地区懇談会」「希望長野ネット」「市民連合・きそ」「平和ネット・しおじり」などが参加しました。

してきた集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、安保法を成立させました。

特定秘密保護法や共謀罪など、世論を無視して強行採決する、国会審議が不十分でも強引に可決するなど、憲法と民主主義を踏みにじるものでした。

「安倍一強」を背景にした政治は与党を政権の追認機関にさせただけか、官邸の意向を付度し絶対視する官僚を生み出し公文書の改ざん、隠蔽も相次ぎました。

国政を私物化し、新自由主義の経済政策の破綻の責任を自己責任として増税と社会保障削減などで国民に負担を押し付けてきました。

文芸欄 俳句

皆様からの投稿を掲載しています。

- 「GOTO」の騒ぎの先や冬隣り 幸代
- 上高地 神は居はせぬ秋の空 加奈子
- 青トマト 畑に残りピクルスに 久子



コラム 有明

池田町の専門学校「日本アルプス国際学院」の記事が連日新聞報道されている。この20日に町と学院による契約変更の協議が行われたとのこと。2年前から旧福祉会館で開校されシステムエンジニア養成校として東南アジア人の留学生(2年課程)が現在2学年合わせて58人が在籍しているとのことだ。当初は1学年40人定員だったが、なぜ学生が集まらなかったのか、途中で退学したのか疑問だ。大阪の派遣企業MRSは説明会で「定数40人が集まれば運営はできる、生活困窮者はいない、アルバイトは白馬のスキー場でできる」との回答だった。東南アジアの留学生がアルバイトできず生活が大変であることや、派遣先とのトラブルがあることは当時からマスコミで報道されていた。気になったが、しかし、それ以上のことは知ることがなかった。今回学院からの契約変更は、町の負担がかなり出てくるらしい。派遣先企業MRSはすでに撤退している。大きな問題だ。ただ、学生たちの生活は？と気になる。学生に対し町民として支援できることはないかと心配する声もある。町の対応を注視したい。

の国が非核3原則を願うものであったに違いない。

作詩のサトウハチローの原稿用紙も染みて汚れた跡があり、涙を流しながら書いたのだろう。

(4丁目 伊藤武)

いま、NHKの連続テレビ小説「エール」でこの頃のこと

